

しゃうが

根莖ヲ鎮嘔劑トス

ききやう 根ヲ祛痰劑トスせねが根ニ代用シ日本藥局方ニモ收載セラレテキル  
かはらけつめい 葉莖ヲ利尿劑トス、山扁豆、濱茶、きつねざる(きつねのびんざるカラノ)等ノ名デ行ハル

しゃくやく 根ヲ收斂劑トス

なつめ 果實ヲ緩和劑トス

みしまさいこ 根ヲ解熱藥トス

よもぎ 莖葉ヲ止血強壯劑トス

をけら 根ヲ蒼朮白朮ト稱シ利尿劑トス

ぶくりやう 松ノ根ニ生ズル菌體デ強心利尿劑トス

もも 種子仁ヲ惡血驅除劑トス

以上ハ私ノ妄評デアルガ我國ノ藥用植物ニ付キ中等教員諸氏ノ多少トモ參考トナルヲ得バ望外ノ幸デアル

## ○Lichenノ譯語ニ就テ述べル

佐藤正己

現在日本デハ「地衣」ト云ヘバ Lichen の譯語トシテ通用シテキルガ何時頃カラ用ヒラレタカハ一寸面倒ナ問題デアル、一體カウ云ウ故事來歴ハ白井先生ヤ牧野先生ノ御領分デ小生如キ若輩ノ分ルコトデハナイガ牧野先生御所藏ノ古書珍本ヲ見セテイタバク事ガデキタノデ一寸書イテ見ルコトニシタ  
 ソモク「地衣」ハモト Lichen ヲ意味スルモノデハナカツタ、地衣草トシテ始メテ『日華諸家本草』ニ著錄ナレ「此乃陰濕地被日晒起苔蘚也」ト註釋サレ、或ハ「即濕地上苔衣如草狀者耳」ノ解說モアル、之カラ考ヘ

ルト種類ハ何デモカマハズタ、一面ニ地面ニ生エタ所謂こけノ群落ヲ云ツタモノ即チ苔類蘚類地衣類ヲオシナベテ云ツタモノデ必ずシモアル一種ノ植物ヲ指シタモノデハナイラシイ、歐洲デモ千七百年頃マデハ地衣類苔蘚類ヲ總テ一緒ニ *Muscus* (即チ英語ノ Moss) ノ部ニ入レテアツタガ實ニ東西ノ好一對ト謂フベキデアラウサテ次ニ『本草綱目啓蒙』卷之十七ヲ見ルトひかりづけ、ぢづけ、あをづけ、びろうどづけナドノ和名ガ記サレ「陰地上ニ一面ニ生ズル綠苔ナリ、形鷺毛絨ノ如シ、數品アリ」ト説明シテアル、之カラ考ヘルト寧ロ今日ノ苔類ヲ指ス様デアル、其ノ他地衣草ノ垣根ニ生ズルモノヲ垣衣ト稱シ、屋瓦上ニ着生スルモノヲ屋遊ト呼ンデ居ルガ何レモ漠然トシテ居テ正體ガツカメナイ、唯石蕊ニハはなづけ、しらづけノ和名ヲツケテ「山中土石上ニ生ズ、高サ二三寸叢生シ白色、形花蕊ノ如シ、圓細ニシテ枝ヲ分ツ、内空シ探研テ茶トナシ飲ムベシ」トアルカラ石蕊ハ先ヅ現在ノ地衣類デハなごけ *Cladonia rangiferina* 又ハ之レニ近イモノト見テヨイダラウ要スルニ今カラ六、七十年前マデハ地面ニ平布シテ生エル所謂こけノ群落ヲ地衣ト呼ンダモノラシイサテ牧野先生御所藏ノ文部省博物局發行『林娜氏植物綱目表』(明治五年壬申八月發行)ヲ見ルト次ノヤウニナツテキル

## 植物

有花部……

一目 羊齒……

二目 菖蒲……

三目 藻類……

四目 芝桜……

無花部……二十四綱殖機隱微者 *Cryptogamia*

即チ地衣草ト呼バレタモノハ苔蘚目ニ屬スルモノトシテアル、古イ意味ノ地衣ナル語ハ此頃マデ使用サレタモノラシイ

然ルニ同年十月同ジク文部省博物局發行ノ田中芳男先生譯ノ『坪・甘度爾列氏植物自然分科表』ニ據レバ、地衣ハ明瞭ニ Lichen ニアテ、アル、次ニソノ表ノ一部ヲ引用スル

有花…

植物

無花…無子葉

上長部

第一百十八綱 Lichenes 地衣科

第二百十九綱 Fungi

芝桟科

第二百二十綱 Algae

海藻科

コ、ニ於テ始メテ我々ハ現在ノ意味デ使ハレタ地衣ナル語ヲ見出シタワケデアル

Lichen ヲ始メテ地衣ト譯シタ人ハ田中芳男先生ニアツテ地衣ナル語ハ明治五年ヲ界トシテ古イ意味ヲ捨テ、更生シタト考ヘタイ、資料ノ乏シイ著者ハ敢テ斷言スルコトハ出來ナイガ先ズ中ラズト雖モ遠カラズト云フ確信ハ持テルト思フ

續イテ明治七年ニ出版サレタ『植物譯筌』(本誌第五卷第四號ニ牧野先生ノ記事ガアル)ハ田中芳男先生ノ校閱ヲウケタ本ダカラ同様ニ Lichenes ニハ地衣科ノ譯ガアテ、アル

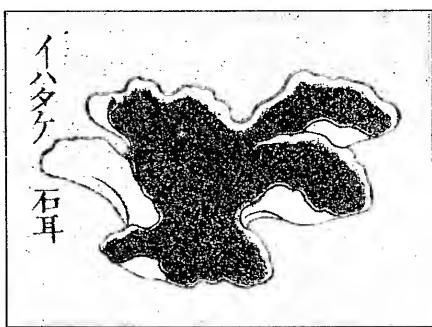
小野職懸撰明治六年第十月文部省發行ノ『博物圖』ニタゞ一種地衣類ノ石耳(いはたけ)ガ載ツテキルガ之ハ同圖第四ノ芝桟類(即チ現在ノ菌類)ニ入レテアル、然シ之ハ程度ノ低イ博物ノ圖デアルカラ無理モナイコトデアル、右ノ博物圖發行ノ直後ソレニ就テノ教授法ノ書物ガ數部發行セラレタ、其中ノ『小學博物教授書』ヲ偶然手ニ入レタカラソノ書中カラ上ノいはたけノ一圖(次頁ヲ見ヨ)ヲ此處ニ轉載スル、コレハ即チ上ノ『博物圖』中ノ圖ト同ジモノデアル

兎ニ角専門家ノ間ニハ地衣ノ語ガ知ラレタデアラウガ一般ノ辭書ニハ中々新シイ意味ノ地衣ナル語ハ出テ來ナ

Lichen の翻語と就テ述べル

カツタ

著者ハ先日牧野先生ノ御宅ニアル古イ辭典ヲ引イテ見タラ次ノヤウナ譯ガ  
出テキタ



『小學博物教授書』ニ轉載シアル『博物圖』ノ  
いはたけ(石耳)ノ圖

文久二年(一八六一年)ノ『英和對譯袖珍辭書』ニハ Lichen の語ハ載ツテキ  
ナイ、慶應三年(一八六七年)ノ本書第二版モ多分同様デアラウ、明治元年  
(一八六八年)香港デ發行サレタ『英華辭典』ニハ「石耳、石蕊、石花、苔  
菜」ノ譯語ガアル、明治四年(一八七一年)ノ『和譯英辭林』ニハ「草ノ名」ト  
シテアル、明治五年(一八七二年)平文先生編譯『和英語林集成』第二版ニハ  
ナイガ、同年開拓使發行ノ『英和對譯辭書』ニハ「草ノ名」トアル、又支那デ  
發行サレタ『英華萃林韻府』ニハ「苔、石蕊、石花、地衣、仰天皮」ナドト譯サレ  
テキル、明治六年(一八七三年)ノ『英和字彙』ニハ Lichen 「苔、頭瘡」ノ外  
ニ Lichenic acid 苔酸及々 Lichenin 「依蘭苔越斯幾」ナド相當多クノ語ガ出

テキル

終リニ貴重ナ資料ヲ自由ニ見セテ下サツタ牧野先生ニ厚ク御禮申上グマベ (1932. 4. 28. 稿)

## ○滿洲大平原ニ產スルあやめ屬ノ品類

滿洲教育專門學校 野 田 光 藏

余ハ恩師大賀博士ニ師事スルコト五年其ノ間御懇篤ナル御指導ニヨリ滿洲植物界ノ現情ヲ知得シ、先づ滿洲大平原ノ植生研究ニ志シ此處ニ同大平原ニ產スルあやめニ就テ記シテ見タイト思フ